

平成30年9月5日

福島大学大学院共生システム理工学研究科 (環境放射能学専攻) の設置認可について

平成30年4月25日付けで大学院共生システム理工学研究科(環境放射能学専攻)の設置計画書を文部科学省に提出しておりましたが、大学設置・学校法人審議会による審査を経て、平成30年8月22日に設置の認可が下り、平成31年4月より開設することとなりましたのでご報告いたします。

※設置計画の概要、目的等については、平成30年8月23日のプレスリリース別紙資料をご参照ください。

【カリキュラムの特徴について】

修了要件として必修科目24単位(基礎領域の実践科目ならびに共通科目、深化領域の講究科目ならびに分野毎の必修科目)、分野毎に深化領域の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、本大学院が行う修士論文の審査に合格することになります。基礎領域の中に野外演習を核とする実践科目「環境放射能学演習」「環境放射能学特別演習」を設けます。本科目では、環境放射能学にとって重要な試料採取・測定・解析を網羅する実践的な大学院教育を行います。

【入学志願者について】

一般入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試、推薦入試(高等専門学校専攻科生対象)を行います。その中で社会人対応として勤務の状況に応じて履修形態を夜間の時間での開講も可能です。また次の長期履修学生制度を利用した対応も可能としております。

【長期履修学生制度】

職業等に従事することにより時間的制約のある学生のために、標準修業年限を超えた期間(長期履修期間)で修学を可能にする制度です。長期履修生として認められた場合は、認められた長期履修期間に応じて分割した額の授業料を各年度に支払うことになります。この制度を利用することで、授業料総額はそのままに通常2年で修了のところ3年もしくは4年間かけて学び、修了することが可能となります。

(お問い合わせ先)

環境放射能研究所事務室長 長根 恵工美

電話：024-504-2848

メールアドレス：ier@adb.fukushima-u.ac.jp

福島大学大学院共生システム理工学研究科（環境放射能学専攻）の 設置について

【設置計画の概要】

- ・共生システム理工学研究科に新たに環境放射能学専攻を設置する（開設時期 平成 31 年 4 月）。
修業年限 2 年、 入学定員 7 名（収容定員 14 名）、学位 修士（理工学）
- ・環境放射能学専攻の設置に伴い、共生システム理工学専攻の入学定員を 53 名（▲7 名）とする。

【教育研究上の目的・養成する人材像】

本専攻は、人工および天然放射性核種の計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに中長期的視点で総合的に取り組むことができ、環境防護、予測、評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの分野に貢献するとともに、その知見を社会の課題解決に活用できる能力と実践する力を有する専門職業人を育成する。

本専攻（修士課程）では、以下の姿勢・知識・能力を修得させる。

- ・環境放射能学というさまざまな学問分野を背景とする学際的枠組みの中で、従来の学問分野の枠組みにとらわれず多元的な視点から事象をとらえようとする姿勢と、研究発表等において異分野の専門家と対話できる能力。
- ・当該分野における課題解決に必要とされる、専門的な知識・技術。
- ・専門的な知識・技術を具体的な課題解決に実践的に活かす能力。
- ・専門的な知識・技術や研究成果を他者に的確に伝える能力。

【教育課程】

- ・環境放射能学専攻は、生態学、生物学、地球科学、現象数理学、化学、物理学、機械工学、電気工学などさまざまな学問分野を背景とする人材に対して、環境放射能学という学際的な学問分野に対応できる力を有する人材を育成するため、環境放射能学に関する俯瞰的知識ならびに実習を含む専門的教育を提供する。
- ・専攻としての専門的学習目標を明確化するため、生態学、モデリング、計測の 3 分野を設ける。
- ・専任教員計 11 名、教科専門等兼任教員 8 名で指導にあたる。
- ・基礎領域（共通科目・実践科目）において環境放射能に関する全般的・俯瞰的な事項を学んだ上で、深化領域（応用科目と講究科目（修士論文研究））で環境放射能に係る専門分野の深化を図る。

【専門分野ごとの担当科目】

〔生態学分野〕

本分野で中心となる学問分野は、生態学である。本分野では、魚類生態学、動物生態学、森林生態学を専門とする教員から構成されている。また、兼務教員の水域・陸域・森林における放射性物質の生物への蓄積や生物を介した循環についての授業の展開が可能である。

〔モデリング分野〕

本分野で中心となる学問分野は地球科学である。海洋、大気、陸域の各環境コンポーネントにおける放射性物質の移動や循環を観測によって明らかにする。また、これらの観測データを基にした数値シミュレーションを開発することにより、より広域かつ中長期の評価につなげることが可能となる。

〔計測分野〕

本分野で中心となる学問分野は化学である。放射性物質の化学形態の分析、高度な分析技術や計測技術の開発・改良を通して、放射性物質の動態に関する理解の深化を図ることが期待される。

平成31年度 学生募集



福島大学大学院共生システム理工学研究科

環境放射能学専攻 (修士課程)

2019 年 4 月 設 置 !!



環境中の放射性物質は、水や土壌の移動により森林、河川、海洋などの間で、あるいは食物連鎖等を通じて植物や動物の間でも移行します。

本専攻では、環境中の放射性物質の動態の詳細を科学的に解明し、今後の対策を進める能力を有する人材を育成します。生態学、生物学、地球科学、現象数理学、化学、物理学、機械工学、電気工学などさまざまな学問分野を背景とする人材に対して、環境放射能学に関する幅広い知識ならびに実習、野外演習を含む専門的教育を提供します。

表現力や対話力、英語力の育成を目的とした討論形式の授業を設定し、グローバルリーダーを育成します。

■入試情報

- | | |
|---------------|---|
| ■ 募集人員 | 7 名 |
| ■ 選抜方法 | 口頭発表・口頭試問 |
| ■ 試験日
(予定) | 2018 年 10 月 14 日 (日)
2018 年 11 月 24 日 (土) |
| ■ 入試種別 | 一般入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試、
推薦入試 (高等専門学校専攻科生対象) |